

第 38 号

http://www.nissiren.com

あ〜す・れっく

＝日資連界報＝

日本再生資源事業協同組合連合会
〒101-0061 千代田区三崎町 2-21-1
TEL 03 (3263) 9101
発行人 紺野 武郎
編集人 星 本 昭 次
印刷 株式会社資源新報社

第34回通常総会

新会長に紺野武郎(東京)氏

改革路線の継続に協力求め

日資連ではさき五月十三日(土)、東京・霞ヶ関ビルで第三十四回通常総会を開催した。平成十七年度の事業・決算報告、十八年度事業計画案、予算案等全七議案について審議、全てを原案の通り可決した。

議事は先ず挨拶に立ち、倉林前会長は、今期で任期満了を迎えるにあたって、ここ数年の業界動向について、

を振り返り、「会長を拝命した四年間、再生資源全般に国内市場は最悪だった。その後、国際市場の需要も徐々に回復し、国内価格も回復しはじめ、東南アジア等の経済発展とともに金属類についても急速な市況の改善が見られた。ここにきて銅価格がつかない高水準に達している。いずれも市場のグローバル化に支えられた現象であり、海外頼みという点では危うさも感じないが、我々業界にとっては大きなプラスとなった。さらに、我々業界に必要なことは、組織としても個人としてもこの先の方向性を的確に判断することだ。地域の自治体委託事業でも財政難を理由に委託費用がカットされているという。

大局的なところでは世界市場の動きや国内市場の動向から、身近なところでは地域自治体の施策の方向性まで、我々の事業に關係するすべての要因を把握し、それに基づいて的確に分析することが大切だ(抜粋)」と述べた。

十七年度事業報告では、紺野武郎プロジェクトNリーダーが、中小企業活路開拓調査・実現化事業

秩序ある業界体制構築へ

会長 紺野 武郎



さて、わが国も長期のデフレ経済から徐々に変化の兆しが見え、原油にはじまり各種資源物の国際的な物流戦略の高波も押し寄せて、資源専らな様相さえ感じられる状況になってきた。

業界環境を見ると、金属屑も古紙も活発な輸出事業を展開しており、国内市場にも強く影響を及ぼしている。特に鉄・非鉄金属類の価格高騰は、バブル期をはるかに上回って好況を続け投資の場にもなってきた。さらに、逆有償で処理していた廃プラスチックまでが高値で取引可能な品目へと急変している。

一方、古紙市況の改善は遅く、いまだに十分な回収コストを賄えない価格で推移し、行政の財政難ともあいまって末端の回収事業者の経営状態はまだまだ厳しいものがある。加えて大手ヤードの乱

去る五月十三日の第三十四回通常総会におきまして会長職を拝命いたしました。その責任の重さを全身に受け止めて、微力ではありますが任務を全うしたいと思っております。

構成組合の組合員各位におかれましては、今までにもまして日資連活動にご理解を頂き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、倉林前会長には、長年にわたり日資連発展のためにご尽力を頂き心から感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

このように日資連を取り巻く環境は、取り扱った品目においても営業形態においても地域的にも大きな格差や問題が山積しており、各種リサイクル法の施行にも、従来からの資源回収活動の足かせとならないうる改正案の提言や調査研究を急ぐ必要があり。

去る六月二日連合会では、理事による緊急の臨時理事会を開きました。内外の課題に迅速に対応して循環型社会の二一に答えるべく公共性の高い運営をめざし、更に本部と各地区組織の連携強化にもつながる委員会などの組織改

制度運用順調に進む

活路開拓事業の成果を報告

日資連では昨年度、中小企業活路開拓・実現化事業として自主認定制度の導入とリサイクル化証明書の普及に取り組んだが、事業期間が終了したことから、この成果を報告した。

容器包装、家電、自動車等各種リサイクル法が順次施行されるなか、日資連ではリサイクル実務者として、新たなシステムの構築にさまざまな提案を行ってきた。しかしながら、これら法整備が現状では、必ずしも既存のリサイクルシステムに有益なもので機能する内容とはなっていないとの認識を持っている。

日資連ではこれまで、再生資源業界の社会的な地位向上にさまざまな取り組みを行ってきたが、新たな取り組みとして、実務事業者としての信頼性を確保し、事業活動の安定化を図るため、「日資連再生資源回収事業者認定制度」を創設した。

昨年度は、中小企業団体中央会の補助事業「活路

報告を行い、自主認定制度の導入とリサイクル化証明書の普及について進捗状況を詳細に説明した。任期満了に伴う役員の変更では、倉林前会長が勇退、紺野武郎副会長が新会長に選出された。

紺野新会長は就任にあたり、「代行時代を含めて八年にわたり、倉林会長の英断により、経産省との連携強化や組織改革

等、発展的な活動ができた」と氏の功績を称え、「倉林会長が進めた改革の手を緩めることなく、これまでに踏んできた改革の努力を持って事業を発展、強化させていきたい。特にプロジェクトNの今後の動きには一層ご期待願いたい(抜粋)」と今後に向けての抱負を述べた。

総会は定刻に終了、引き続き記念講演会に移り、経産省リサイクル推進課・井内慎男課長が「循環型経済社会の現状と課題」と題して、容器包装リサイクル法の改正と廃棄物リサイクルガバナンスの考え方などについての講演を行った。

終了後、来賓を交えて懇親会が催された。

運用方法の検討、施行を行なった。

その結果、認定制度に關しては、日資連としての理念と定義を定めた「再生資源基本要綱」とこれを踏まえた制度が完成、平成十七年八月より運用を始めた。

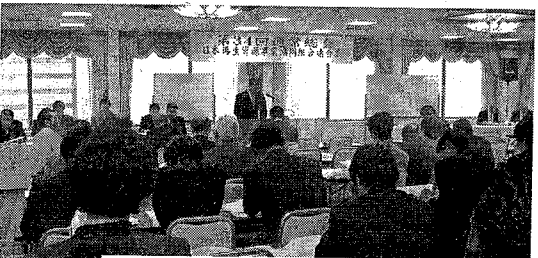
なお、現在の申請受付状況は登録者数で五月末時点、五〇〇社に達している。(報告書作成の二月十八日時点で日資連非加盟事業者五社含め、一都道府県二二三事業者)

一方、リサイクル化証明書については、平成十七年度の第一期作成から十六年に一部改定を経て今回、認定制度発足を機にトレーサビリティとコンプライアンスの確保を目的に大幅な改定を行なった。併せて、本年四月より認定取得者のみに使用を限定するなど運用方法の見直しも行なっている。

同時に実施した、組合員事業者実態調査に關しては、業態、所有資格、事業規模、行政委託事業の有無など九項目にわたり単協を通じて調査を実施したが、今年二月時点での回答数は五〇〇社程度に留まった。実態調査については今後も継続的に進めたい。実態調査に關しては、今後とも協力を求め、有効なデータの蓄積につなげていくこととした。

今回の認定制度の実施に關しては、受付開始直後より未加盟事業者からの申し込みや関連業界からの問い合わせがあるなど予想以上の反響があり、制度の運用は現状、概ね順調に進んでいると評価できる。

今後については、非加盟事業者を含めた外部への対応も課題となることから、組織も踏まえたうえで、組織運営や制度見直しも必要となる。



倉林前会長が紺野新会長にエールを
をねぎらった

千葉設営で全国大会

紺野「認定制度活かした組織活動へ」

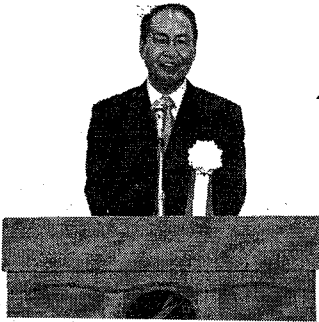
さる六月十一日、千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会(会長・大塚勝彦氏)の設営により、千葉市中央区のホテルグリーントワース千葉において第三十四回日資連全国大会を盛大に開催した。

来賓には、千葉県・堂本睦子知事、鈴木正明資源循環推進課長、千葉県中小企業団体中央会・坂戸誠一会長、鈴木幸男事務局長、河村たかし衆議院議員、前参議院議員・浜田卓一郎氏、日本自動車リサイクル協会・小野順一会長はじめ多数が出席した。

大会は、「日資連認定制度で全国組織の達成を」、「市民・行政・日資連で作る資源循環型社会」、「リサイクルシステム議員懇談会との連携強化」、「事業者の安心を届ける」の4つの挨拶を述べた。

前会長の倉林喜一郎氏をはじめ杉山紀美氏、遠藤憲司氏の三氏への感謝状の贈呈式があり、先の日資連第三十四回総会報告、日資連認定制度の進行報告が行われた。来年度大会開催地を岐阜県と決定、原幸男岐阜県協同専務理事の閉会の挨拶で総会は終了した。

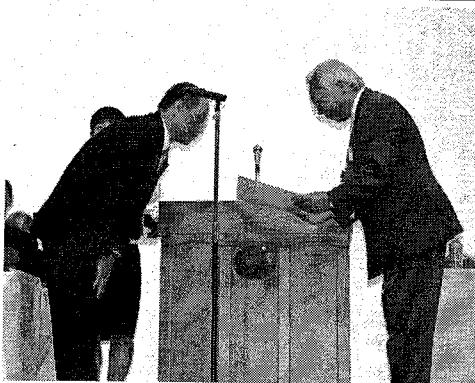
このあと宇宙アカデミーさくやまの菊山紀彦代表



挨拶する紺野会長



第34回 日資連全国大会 千葉大会

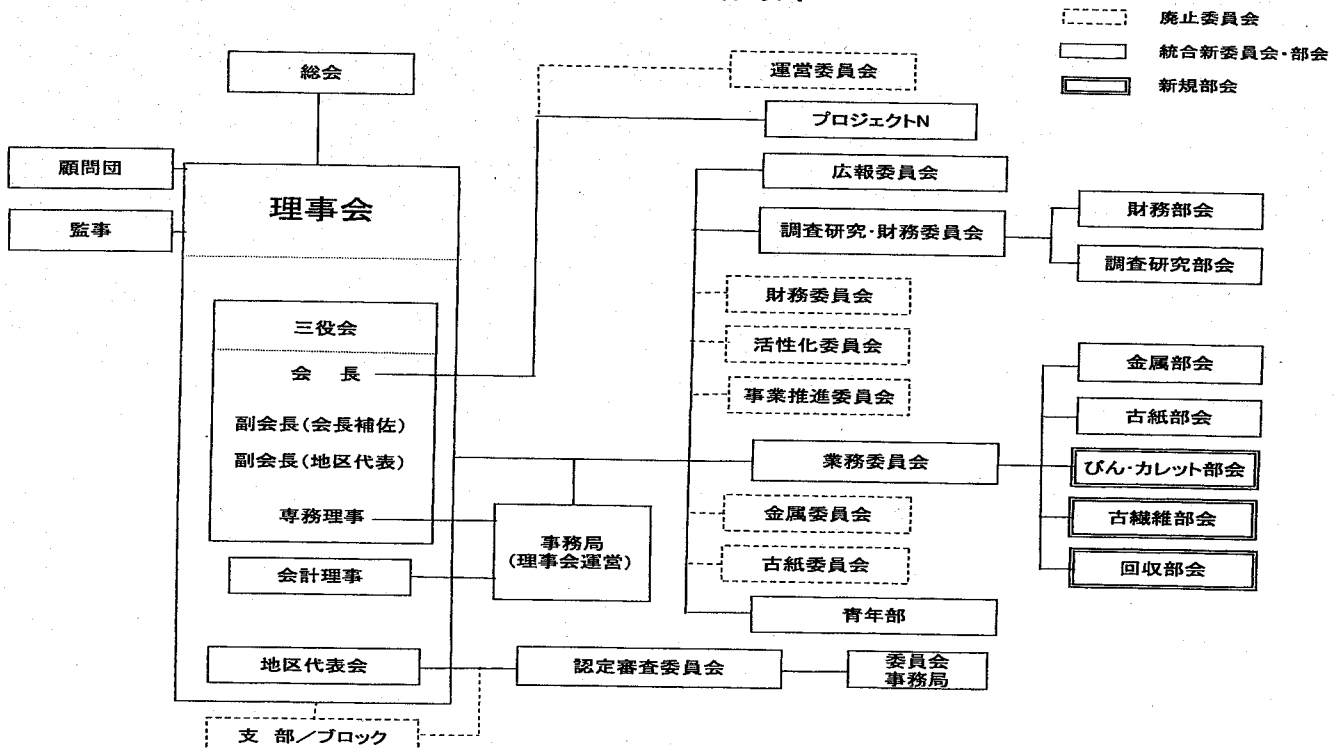


功労者に感謝状を贈る

役職	氏名	所属
会長	紺野 武郎	(東京)
副会長	西本 仁	(奈良)
	細田 益弘	(埼玉)
	高橋 隆助	(福島)
	新井 英一	(東京)
	太田 喜代高	(三重)
	入江 金男	(大阪)
	杉本 邦夫	(岡山)
	金田 浩盟	(愛媛)
	西原 茂雄	(熊本)
専務理事	谷中 勝典	(栃木)
会計理事	飯田 俊夫	(千葉)
広報委員長	星本 昭次	(栃木)
調査委員長	西原 茂雄	(熊本)
業務委員長	新井 英一	(東京)
認定委員長	毒島 龍一	(千葉商科大学)
青年部長	松本 貞行	(東京)
プロジェクトN	杉本 邦夫	(岡山)

クル協会・小野会長等の挨拶で盛り上がる気運の中、平成十八年度の日資連の前進が期待された。なお、新役員、各委員会委員長は別表の通り。

日資連組織改革



第三十四回通常総会記念講演

「循環型経済社会の現状と課題」

経済産業省リサイクル推進課長 井内 摂男氏

さきに開催された日資連第三十四回通常総会野記念講演で、経産省リサイクル推進課・井内摂男課長が「循環型経済社会の現状と課題」と題して、容器包装リサイクル法の改正と廃棄物リサイクルガバナンスの考え方などをテーマに講演を行った。以下はその概要。

▽資源利用の状況と動向

平成十五年度における我が国の物質フローを見ると、約二億トンの物質投入量のうち一億七千万トンが天然資源等であり、うち五割近い七千九百万トンを海外からの輸入に依存している。資源利用の効率性を示す資源生産性については、循環型社会形成基本計画では二〇〇〇年度のトンあたり約二万八千から二〇一〇年には同三万九千と、概ね四割の向上という数値目標が示されている。同時に、資源の循環利用率を一〇〇から一四〇%に向上させ、結果と

▽容器包装リサイクル制度の見直し

循環型社会形成推進基本法により、我が国の廃棄物・リサイクル施策の方向性が示され、その考え方のもとで、素材毎に各種リサイクル法が整備された。それぞれのR法は施行後概ね五年をめぐって法の進捗状況を点検、制度の見直しが行なわれていることになっている。

▽廃棄物・リサイクルガバナンスについて

我が国の廃棄物不法投棄の動向は、平成十年度をピークに若干の増減を見つつ減少の傾向にある。一方で、国内最大級のいわゆる大規模事案が頻発するなど、より大規模化、巧妙化しているとの指摘もある。法に基づく措置命令の状況を見ると、対象となった被命令者はサビ企業、製造業、流通業と広範囲にわたる。現在、産業界全体に廃棄物処理とリサイクルについて個々の企業それぞれに管理体制の強化が求められている。



廃棄物マネジメントにおいて問題とされる例としては、企業がゼロエミッションを目標とする一方で、

など、今回の見直しに際しても各方面からさまざまな意見が出された。容器包装リサイクル法の見直しにあたっては、①分別収集から再商品化までの社会的なコスト全体の抑制、②リデュース・リユースの推進、③リサイクル率の向上を基本に事業者、市町村、消費者等各主体に取り組みの強化が求められた。再商品化費用の低減については、具体的には、易リサイクル型製品への転換など事業者による寄与と、選別の高度化など市町村による寄与が必要となるが、今回の改正では、再商品化費用の低減額のうち市町村による寄与と考えられる部分を市町村に拠出する制度を新設することとした。市町村の高度な選別などを促し、市町村と事業者の連携によるリサイクルの高度化を図ることがねらい。また、現行法では一部事業者の負担が過重であるとの指摘や、事業者間の不公平感が指摘されていたことなどから、特に、法の適用範囲にありながら義務を果たさないいわゆる「ただ乗り事業者」についての取り組みを強化、同様に対象の範囲も拡大して容器包装を利用する事業者が広く公平に責任を分担し合う仕組みを目指した。改正法案は今国会で成立の見込みとなっており、平成二十年四月にも市町村に対する新たな資金提供の制度がスタートするものと見られている。

く、循環型社会の構築に積極的に貢献することで、一段上の取り組みをめざすことが、企業価値の向上にもつながる。産廃では、このような取り組みをめざす企業に向けて平成十六年九月、廃棄物・リサイクルガバナンスガイドラインを策定した。経営者から全従業員まで全社的な体制の構築、関連企業、処理、リサイクル委託先など広範な関係者との連携、さらには自らの取り組みを顧客や投資家、地域社会に情報として発信し、情報を共有するなどのシステムを提唱している。廃棄物・リサイクルガバナンスを導入すること、資源の有効利用など

循環型社会の構築に貢献すると同時に、不適正処理の防止など経営リスクの低減につながるほか、ブランドイメージの向上による企業価値の増大等が期待できるとしている。なお、同ガイドラインでは、対経営者、対廃棄物管理部門、対現場担当者とそれぞれに取り組む内容を示している。廃棄物・リサイクルガバナンスガイドラインの普及・拡大については、各業界団体を通じて産業界全体へのPRが行なわれているが、さらに対応し、今後、海外の日系企業の現地工場等でのガバナンス確保のための施策が展開されることになる。

平成18年6月15日調査

日資連 モニター集計表

基準は問屋持込販売価格(円/kg)

品名	H 2 (特級)	発生	鉄干地 (二級)	発生	スチール缶 プラス	発生	スチール缶 パラ	発生	アルミ缶 プラス	発生	アルミ缶 パラ	発生	光特号 (細)	発生	新聞	発生	雑誌	発生	段ボール	発生	込物口	発生
1 北海道	高値 16.5 安値 12.5	減	高値 8.0 安値 4.0	減	高値 14.0 安値 10.0	減	高値 8.0 安値 4.0	減	高値 120.0 安値 100.0	減	高値 65.0 安値 45.0	減	高値 450.0 安値 390.0	減	高値 5.5 安値 5.0	減	高値 1.5 安値 1.0	減	高値 3.0 安値 2.0	減	高値 2.0 安値 0.0	増
2 栃木	高値 22.0 安値 21.0	減	高値 12.5 安値 11.5	減	高値 19.5 安値 18.5	減	高値 11.0 安値 10.0	減	高値 145.0 安値 135.0	減	高値 145.0 安値 135.0	減	高値 750.0 安値 700.0	減	高値 8.0 安値 8.0	減	高値 4.5 安値 4.5	減	高値 7.5 安値 6.0	減	高値 6.0 安値 0.0	増
3 埼玉	高値 23.0 安値 21.0	減	高値 12.0 安値 12.0	減	高値 18.0 安値 14.0	減	高値 3.0 安値 0.0	減	高値 175.0 安値 155.0	増	高値 140.0 安値 100.0	増	高値 650.0 安値 600.0	減	高値 4.0 安値 4.0	減	高値 3.0 安値 3.0	減	高値 5.0 安値 5.0	減	高値 0.0 安値 0.0	増
4 東京	高値 12.0 安値 10.0	減	高値 3.0 安値 5.0	減	高値 5.0 安値 3.0	減	高値 85.0 安値 70.0	減	高値 85.0 安値 70.0	減	高値 40.0 安値 30.0	減	高値 450.0 安値 420.0	減	高値 8.5 安値 5.0	増	高値 5.0 安値 3.0	増	高値 6.0 安値 4.0	増	高値 4.0 安値 0.0	増
5 神奈川	高値 23.0 安値 21.0	減	高値 8.0 安値 4.0	減	高値 18.0 安値 14.0	減	高値 7.0 安値 5.0	増	高値 175.0 安値 155.0	増	高値 140.0 安値 100.0	増	高値 760.0 安値 700.0	減	高値 5.5 安値 5.0	減	高値 3.5 安値 3.0	減	高値 6.0 安値 5.0	減	高値 0.5 安値 0.0	増
6 富山	高値 18.0 安値 17.5	減	高値 13.0 安値 13.0	減	高値 13.0 安値 13.0	減	高値 7.0 安値 5.5	減	高値 100.0 安値 100.0	減	高値 50.0 安値 90.0	減	高値 700.0 安値 400.0	減	高値 5.0 安値 5.0	減	高値 2.0 安値 2.0	減	高値 5.0 安値 5.0	減	高値 0.0 安値 0.0	増
7 福井	高値 19.0 安値 17.5	減	高値 17.5 安値 15.5	減	高値 17.5 安値 15.5	減	高値 3.0 安値 5.5	減	高値 165.0 安値 125.0	減	高値 120.0 安値 90.0	減	高値 600.0 安値 400.0	減	高値 6.0 安値 6.0	減	高値 3.5 安値 3.5	減	高値 7.0 安値 7.0	減	高値 0.0 安値 0.0	増
8 岐阜	高値 20.0 安値 19.0	減	高値 9.0 安値 7.0	減	高値 12.0 安値 7.0	減	高値 6.0 安値 3.0	減	高値 180.0 安値 140.0	減	高値 130.0 安値 115.0	減	高値 700.0 安値 680.0	減	高値 6.0 安値 5.0	減	高値 3.0 安値 2.0	減	高値 6.5 安値 5.0	減	高値 2.0 安値 0.0	増
9 静岡	高値 20.0 安値 15.0	減	高値 1.0 安値 0.0	減	高値 12.0 安値 7.0	減	高値 8.0 安値 0.0	減	高値 170.0 安値 140.0	減	高値 100.0 安値 100.0	減	高値 650.0 安値 500.0	減	高値 6.0 安値 5.0	減	高値 3.0 安値 2.0	減	高値 5.0 安値 4.0	減	高値 1.0 安値 0.0	増
10 奈良	高値 20.0 安値 17.0	減	高値 12.0 安値 10.0	減	高値 10.0 安値 7.0	減	高値 4.0 安値 0.0	増	高値 140.0 安値 120.0	増	高値 140.0 安値 100.0	増	高値 650.0 安値 600.0	減	高値 6.0 安値 5.0	減	高値 3.0 安値 2.0	減	高値 5.0 安値 4.0	減	高値 0.0 安値 0.0	増
11 和歌山	高値 17.0 安値 14.0	減	高値 8.0 安値 4.0	減	高値 14.0 安値 10.0	減	高値 8.0 安値 4.0	減	高値 120.0 安値 90.0	減	高値 100.0 安値 70.0	減	高値 200.0 安値 150.0	減	高値 5.5 安値 4.0	減	高値 1.5 安値 1.0	減	高値 3.5 安値 2.5	減	高値 0.0 安値 0.0	増
12 鳥取	高値 19.0 安値 18.5	減	高値 4.0 安値 3.0	減	高値 2.0 安値 2.0	減	高値 2.0 安値 0.0	減	高値 155.0 安値 145.0	減	高値 130.0 安値 100.0	減	高値 640.0 安値 600.0	減	高値 7.5 安値 6.5	減	高値 4.0 安値 3.0	増	高値 7.0 安値 6.0	増	高値 0.0 安値 0.0	増
13 熊本	高値 19.2 安値 17.0	減	高値 7.6 安値 5.8	減	高値 14.9 安値 11.9	減	高値 7.1 安値 3.5	減	高値 150.9 安値 126.8	減	高値 119.1 安値 88.8	減	高値 593.6 安値 540.8	減	高値 6.4 安値 5.4	減	高値 3.4 安値 2.4	減	高値 5.9 安値 4.4	減	高値 1.2 安値 0.8	増

全国規模での活動展開へ

青年部総会 松本部長(東京)を再任

さる五月十三日(土)に、東海大学校友会館(東京・霞ヶ関ビル)を会場に日資連青年部総会が行われ、各県から計十五名の参加がありました。千葉の斎藤氏の司会により開会宣言され、はじめに松本青年部長が挨拶、続いて議事の進行に移りました。

岐阜の小沢氏を議長に、議事は十七年度の活動・決算報告及び十八年度の活動計画、役員の改選と滞りなく進行しました。役員改選では、引き

債務保証制度のご案内

鉄源協会では、鉄スクラップ加工処理業に従事し、鉄源協会、日本鉄リサイクル工業会、日本再生資源事業協同組合連合会のいずれかに所属する事業者を対象とする債務保証制度を行なっている。以下に概要を紹介する。

同保証制度では、鉄スクラップ加工処理業に係る機械設備(新規導入に限る)の購入資金等について、金融機関からの借入れが必要な場合を保証の対象としている。具体的には①放射性物質混入防止対応に係る資金②自動車リサイクル法対応に係る資金③環境及び産業廃棄物処理対応に係る資金④労働安全化対応に係る資金⑤物流改善化対応に係る資金⑥その他、協会が認める資金が対象。なお、詳細については別表を参照のこと。

制度の詳細、資料請求については、社団法人日本鉄源協会(TEL03-3564-0103)までお問い合わせ下さい。

債務保証対象事例

項 目	内 容
1. 放射性物質混入防止対応資金	・放射能検知器(供給業界の普及率、25%~30%弱) ・ゲート方式と逆し字型屋根方式(約1000万円) ・ハンド方式(約100万円) ・身体装着型キューブ方式(⑤5万円×人数)等
2. 自動車リサイクル法対応資金	・床打ち(鉄筋コンクリート) ・コンクリート打ち+鉄板(上置き) ・シュレッダーダスト保管→屋根の設置等 ・排水装置(油水分離装置等) ・電子マニフェスト対応(コンピュータ他)等
3. 環境及び産業廃棄物処理対応資金	・汚水浄化装置等 ・焼却炉 ・ガス化溶融炉等
4. 労働安全化対応資金	・振動、騒音、粉塵防止設備 ・プレス、シャー、シュレッダーの遠隔装置(約100万~300万円) ・防音壁設置等 ・福利厚生施設(浴室、休憩室の設置)等
5. 物流改善化対応資金	・アームロールとコンテナ、パワーショベルとアタッチメント、ショベルローダー、フォークリフト、ニブラー等

の未来を熱く語りつづ、親睦を深めました。今回の総会には、来賓として福井県の石山氏にご参加いただきました。今後の青年部ネットワークの広がりを期待させる総会となりました。

なお、今回の役員改選で選出された新役員は以下の通りです。

▽青年部長・松本貞行(東京)▽副部長・今柳剛奈良(△会計・林直樹(東京)▽監査・入江真太郎(大阪)伊藤和之(群馬)▽相談役・大田原充(千葉)片岡繁(東京)▽顧問・川島泰次(神奈川)高野昌明(千葉)幹事・各県青年部長

【編集後記】

連日の夏日で、梅雨明け宣言も近いようです。ワールドカップがようやく終わり、皆さん、寝不足からも開放されるの

・認定事業者以外ではリサイクル化証明書を発行できません。
・九月から旧リサイクル化証明書は使用できません。

段ボールのリサイクルは次世代の環境作り!!

循環型社会に最適な包装資材として今後ともリサイクルの推進・向上に努めます。

段ボールリサイクル協議会

リサイクルシンボルの普及促進中!!

資料問い合わせは事務局へ
詳細については日本段ボール工業会のホームページ
(<http://www.jcca.gr.jp>)で閲覧できます

東京都中央区銀座3-9-11 紙パルプ会館
(日本段ボール工業会内)
TEL03-3248-4851 FAX03-5550-2101

ではないでしょうか。さきごろ、第三十四回の日資連全国大会「千葉大会」が盛大に開催されました。初参加の私としてはあまりの盛大さに圧倒されてしまいました。会場の設備をされた千葉県連の皆様には公私共に助けていただきながら、順風満帆の滑り出しです。なのになかなか目の前がぼやけています。ゲッ!めがねが無い!手痛い出費だ。

お礼を申し上げていいのやら。本当に頭が下がります。さて、大会では認定制度に関しては五月の段階で五〇〇の事業者が登録されたとの報告もあり、

神奈川県資源回収商業協同組合

理事長 小松 敏和

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-40-17
モンテベルデ横浜311号室
TEL 045(313)6100・FAX 045(313)6161

東京都資源回収事業協同組合

理事長 新井 英一

〒220-0023 東京都千代田区三崎町2-21-1
TEL 03(3263)3676・FAX 03(3263)3679

千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会

会長 大塚 勝彦

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見2-22-6
富士ビル5階A号室
TEL 043(227)8273・FAX 043(227)2033

奈良県資源回収事業協同組合

理事長 山原文之

〒635-0045 奈良県大和高田市中三倉堂2-4-17
TEL 0745(64)0787・FAX 0745(64)0788

大阪府再生資源事業協同組合

理事長 入江 金男

〒567-0865 大阪府茨木市横江2-9-45
TEL 0726(30)6730・FAX 0726(30)6731

埼玉県再生資源事業協同組合

理事長 細田 益弘

〒338-0826 埼玉県さいたま市桜区大久保領家343-7
TEL 048(852)9048・FAX 048(852)9075

栃木県リサイクル協同組合連合会

会長 谷中 勝典

〒321-0345 栃木県宇都宮市大谷町257
TEL 028(652)0245・FAX 028(652)0736

広告求む!

広告求む!